

新型コロナウイルス禍中の昨年4月、8代目の院長に就任。「各方面にあいさつにもうかがえないほど忙しくて、失礼をしました」と申し訳なきそうに振り返る。当時は外来患者の減少などコロナの大打撃を受け「病院始まって以来の最大の危機」の状況。就任から2週間後に勤務医の感染が判明したが、以後一人の感染者も出ていない。

「高度医療を行う第3次救急医療施設として地域の基幹病院としての役割・使命を果たすために、コ

ロナの影響で機能を落とすわけにはいかない」と先頭に立った。院内対策チームを組織。紫外線放射による殺菌消毒するロボットの導入や会計

した。一つが働き方改革で、象徴的な施策として1月から第2土曜日を休みにする。仕事の合理化などで労働時間の短縮も図る。

とにより有能な人員を確保する。フレキシブルな雇用を導入することで職場の風通しも良くする。三つ目は情報公開で、病院の意思決定過程を

基幹病院の使命果たす

窓口を増設し外来の密を避けるなど、多様な対策を講じて乗り切った。「病院は変わらなければならない」との信念から、三つのことを打ち出

二つ目が雇用制度の改革。ドクターズクリニック(医師事務作業補助者)のような特定職正社員制度を就任早々導入した。これをさらに進めるこ

できるだけ公開し、多くの従業員の知恵を集め取り入れる。また、経営改善へ向け、材料費のコスト削減や外来部門での検査体制

等の充実など2大プロジェクトを掲げ、小さな事項から始めて収益構造を見直す方針だ。アフターコロナをにらんでのことでもある。

1986年に現在地に移転する以前から勤務。「旧病院を知る人間も数えるほどになった」と笑う。医師約200人、職員1500人近くを抱え、644床を設備する大病院のトップとして「病院をこれからも発展させていきたい。そして、変わることなく地域医療に貢献したい」と気負ったところは全くない。



済生会宇都宮病院

院長

の ま しげ た か
野間 重孝氏



社会福祉法人 Saiseikai Utsunomiya Hospital

恩賜財団 済生会宇都宮病院

〒321-0974 宇都宮市竹林町911-1

☎028・626・5500